

事業コード	H30-建-継-20			区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	広域河川改修事業			部局課室名	建設部 河川砂防課
事業種別	河川改修			班 名	河川・ダム・海岸班 (tel)018-860-2514
路線名等	一級河川 齊内川			担当課長名	河川砂防課長 小野 久喜
箇所名	大仙市長野			担当者名	副主幹(兼) 班長 加賀 良宏
プランとの 関連	政策コード	01	政 策 名	県土の保全と防災力強化	
	施策コード	01	施 策 名	災害に備えた強靱な国土づくり	
	指標コード	01	施策目標(指標)名	中小河川における減災対策の推進	

1. 事業の概要

事業期間	H21～ H41 (21年)	総事業費	43.8 億円		国庫補助率	1/2
事業規模	計画延長L=2,700m 計画高水流量V=540m ³ /s(1/20)					
事業の立案 に至る背景	齊内川では、過去に度重なる洪水が発生している。H27.7の洪水では堤防が決壊する被害が発生し、治水対策に対する地域住民の関心度が高く、河川改修に対する要望が高い地域であり、早急な治水対策の推進が必要となっている。					
事業目的	氾濫区域内には大仙市(旧中仙町)の中心部が存在し、家屋集積や道の駅、中学校等の公共施設、さらには国道105号、JR田沢湖線等の重要施設が密集しているものの、治水安全度が1/5確率以下の区間もあり、災害の未然防止を図るため、河川改修を実施する必要がある。					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等
	事 業 費		3,640,000	4,382,000	742,000	
財 源 内 訳	経 費	工 事 費	3,397,000	4,036,000	639,000	鉄道橋の架替えに伴う工事費の増
		用 補 費	20,000	105,000	85,000	鉄道橋の架替えに伴う支障移転費等の増
	財 源	国庫補助	1,820,000	2,191,000	371,000	
		県 債	1,638,000	1,971,900	333,900	
そ の 他		0	0	0		
事 業 内 容		182,000	219,100	37,100		
事業の進捗 状況	<ul style="list-style-type: none"> 全体事業費 43.8億円 平成29年度末投資額 6.6億円 事業進捗率 15.1% (平成29年度から鉄道橋の架け替え工事着手) 					
事業推進上 の課題	H29年度から着手した鉄道橋の架け替えに要する費用が高額であり、架け替え完了予定のH34年度まで残区間に着手することが困難。					
関連する計 画等	「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」において、6つの重点戦略とあわせて推進する基本的な政策として「県土の保全と防災力強化」が位置づけられている。					
情勢の変化 及び長期継 続の理由	鉄道橋架け替え完了予定のH34年度まで残区間に着手することが困難であるほか、県全体での予算制約と全域での浸水被害発生による情勢の変化により、事業期間を延長する必要がある。					
事業効果把 握の手法及 び効果	指 標 名	河川整備率				
	指 標 式	河川改修済み延長/要改修延長				
	指 標 の 種 類	○ 成果指標	● 業績指標	低減指標の有無	○ 有 ● 無	
	目 標 値 a	45.9%			データ等の出典	河川砂防課
	実 績 値 b	46.0%			把握の時期	平成30年 3月
達成率 b/a	100.2%					

前回評価結果等	● 選定または継続 ○ 改善 ○ 見直し ○ 保留または中止
	①指摘事項
	特になし
	②指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容 (特記事項)	評 価 点
必 要 性	氾濫区域内には大仙市 (旧中仙町) の中心部が存在し、住宅密集地や中学校等の公共施設、さらには国道105号、JR田沢湖線等の重要交通網も集積しており、治水安全度が1/5確率以下の区間もあり、災害の未然防止を図る治水対策が必要である。	30点
緊 急 性	度重なる浸水被害が発生しており、洪水に対する地域住民の要望が高い地域である。また、治水対策に対する地域住民の関心度が高く、早急な治水対策の推進が必要である。	13点
有 効 性	現河道を取り込み、既設堤防を利用した改修計画であり、経済性に有利な計画である。また、現河道をそのまま保全するため河川環境を改変することなく、道の駅「なかせん」に隣接する桜並木を保全することが出来、有効性は高い。	12点
効 率 性	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の費用対便益は24.38であり効率性は高い。 ・事業計画を総点検し、既設橋梁の活用や線形見直し等を検討し、コスト削減を図っている。 ・河道掘削により発生した残土を盛土材として使用するなど、コスト削減に努めている。 	11点
熟 度	真木ダム建設中止に伴う治水代替対策として、大仙市及び地域住民の関心度及び要望が高い。	20点
判 定	ランク (● I ○ II ○ III)	86点
	地元からの要望が強く、「必要性」「有効性」「効率性」等から、事業の重要性は高く評価できるため、整備を継続し早期完成を目指すべき	
総 合 評 価	● 継続 ○ 改善して継続 ○ 見直し ○ 中止	
	事業継続は妥当である	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等 (対応方針)

コスト削減に努めながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

--

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 河川改修事業

事業コード (H30-建-継-20)
箇所名 (一級河川斉内川 大仙市長野)

1. 評価内訳

観点	評価項目	細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	想定氾濫区域内の状況	浸水戸数	50戸以上	10	10	浸水戸数681戸
			49～10戸	7		
			10戸未満	3		
	浸水面積		60ha以上	10	10	浸水面積438ha
			59～10ha	7		
			10ha未満	3		
	重要な公共施設		3施設以上	5	5	中仙中学校、長野小学校、大仙中仙支所、広域消防中仙分署 等
			2～1施設	3		
			なし	0		
	整備計画の策定	関係者、関係機関との調整		整備計画策定済み	5	5
協議中であるが特段問題ない				3		
策定に着手していないが予定がある				1		
予定なし				0		
計				30	30	
緊急性	災害発生の危険度	改修目標流量に対する現況流下能力	40%未満	10	10	計画流量540m ³ /sに対し現況流下能力160m ³ /s 30%
			40～59%	7		
			60%以上	5		
	秋田県水防計画	重要水防地域	評定基準区分A	5	3	H30水防計画書より区分B
			評定基準区分B	3		
計			15	13		
有効性	河川整備の有効性	安全度	災害防止等効果が発現する	7	7	
			災害防止効果は現状と変わらない	0		
		親水性	安全に川と親しむ場として利用が見込まれる	5	5	緑化に配慮した護岸高水敷整備
			親水性は現状と変わらない	0		
		地域開発の状況	都市計画区域の存する地域	3	0	
地域開発の計画がある	1					
計			15	12		
効率性	事業の投資効果	費用便益比 (B/C)	1.0以上	5	5	24.38
			1.0未満	0		
	事業実施コストの削減	該当項目数	3項目以上	5	3	既設橋梁の活用や法線見直し 残土の他工区流用
			2項目	3		
			1項目	1		
	当初計画との比較	当初計画事業費からの削減	減少または10%未満の増加	5	3	20.4%増 (4382/3640)
			10%以上30%未満の増加	3		
30%以上の増加			0			
計			15	11		
熟度	地元との合意形成の状況	地域住民の事業実施の意向	意向が強く要件の同意をクリアしている	5	5	
			意向が強く要件の同意を概ね得ている	3		
			意向が一部で強いがまだ要件の同意は得ていない	1		
	市町村の参画	積極的に参画し要望書等の提出がある	5	5	要望書H29.10 大仙市より	
		参画している	3			
		参画していない	0			
	事業の進捗状況	進捗率 (事業費)	8割以上完了	10	5	(H29)663/(計画)4382 =15.1%
			5割以上完了	8		
1割以上完了			5			
1割未満			2			
環境との調和への配慮状況	環境保全への配慮	システムでの環境配慮事項が3事項以上	5	5	工事影響範囲が最小になる計画 排出ガス対策型車両や機械の採用 法面等の緑化の実施 等	
		システムでの環境配慮事項が1～2事項	3			
		システムでの環境配慮事項がない	0			
計			25	20		
合計				100	86	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	
II	優先度が高い	60点以上～80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		